

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **51**
支部だより 2015.4

目 次

Vol.51

• 巻頭言「山形県における社会インフラの長寿命化の取り組み」	
..... 山形県 県土整備部長 上坂 克巳	1
• 技術シリーズ	
「山田町震災復興の今」..... 株式会社復建技術コンサルタント 有馬 義二	2
• 女性技術者から思う建設コンサルタント	
「技術者として母として」..... 東京コンサルタンツ株式会社 鈴木 裕美	4
• 私の趣味	
「NAHAマラソン奮闘記」..... 株式会社ニュージェック 播磨 進	5
• 現場見学会	
「河川及び環境専門委員会合同現場見学会に参加して」	
..... 八千代エンジニアリング株式会社 佐藤 正隆	8
..... 株式会社復建技術コンサルタント 鷺田なぎさ	9
• 新規会員の紹介	
「東北への想い」..... 株式会社構研エンジニアリング 荒 栄記	10
「潤いある未来へ」..... 株式会社日水コン 大久保昌彦	11
• 支部活動報告	
平成26年度 東北各県及び東北地方整備局との意見交換会.....	12
• 平成26年度 RCCM資格試験.....	14
• 平成26年度 RCCM登録更新講習会.....	15
• 委員会紹介「総務部会の活動」..... 総務部会 部会長 中村 秀人	16
• 特集「講演会の報告」.....	18
• 支部だより.....	19
• 会員の動向.....	23
• 東北支部 会員名簿.....	24
• 編集後記..... 広報委員 高橋 力	26



山形県における社会インフラの 長寿命化の取組み

山形県 県土整備部長 上 坂 克 巳

1. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された多くの社会インフラの老朽化に伴い、これらの補修や更新を行う必要性が急速に高まっています。

国、地方とも厳しい財政状況にある中で、社会インフラの補修や更新にいかに対応していくかが全国的に喫緊の課題となっております。

本県においても、これまで整備してきた社会インフラの老朽化が急速に進み、20年後には整備後50年以上経過する管理施設が6割を超えるという状況にあります。

このため、従来の「対症療法型」から使い続けるための「予防保全型」の維持管理への転換を早急に進める必要があると認識しており、橋梁を中心に社会インフラの長寿命化対策を着実に推進していくことで、将来的な財政負担の軽減をめざしているところです。

本稿をお借りして、本県における社会インフラの長寿命化の取組みを紹介させていただきます。

2. 山形県における長寿命化の取組み

本県における長寿命化の取組みは、全国に先駆けて平成16年度に橋梁の点検・調査に着手し、平成19年度に「山形県橋梁長寿命化修繕計画」を策定することにより始まりました。平成21年度には、河川管理施設、都市公園施設、港湾施設の長寿命化計画を策定し、現在、県の管理施設の全ての分野で長寿命化計画を策定し対策を実施しております。

平成26年12月には、県有財産の総合的な管理・活用を図るため、県の総務部が主体となり「山形県県有財産総合管理（ファシリティマネジメント）基本方針」を策定しました。この基本方針は、インフラ長寿命化基本計画に基づく本県のインフラ長寿命化計画（行動計画）である「公共施設等総合管理計画」を兼ねるものとなっております。

3. 本県の橋梁長寿命化対策における課題

平成19年度から長寿命化対策に取り組んだ県管理の橋梁は、平成26年4月時点で、一巡目点検完了時（H23）の要対策橋梁のうち約50%が対策済となって

おります。

一方、市町村管理の橋梁については、平成26年8月までに県内全市町村において橋梁長寿命化修繕計画を策定したものの、平成26年4月時点で対策済み橋梁は4.5%と進捗率が極めて低い状況となっております。市町村からは、財源確保に加え、技術者不足に対する支援や継続的な発注支援等の要望がありました。

4. 平成26年度からの新たな取組み

市町村への支援の強化を目的に、平成26年5月に東北地方整備局、県、市町村、東日本高速道路(株)、山形県道路公社からなる「山形県道路メンテナンス会議」を立ち上げました。橋梁点検や補修設計にかかる研修会の開催や市町村の道路施設点検業務の一括発注を実施し、県・市町村職員のみならず貴協会会員の皆様や企業の方々の技術力向上及び市町村の業務低減を図りました。今後も市町村の要望に応じた活動を実施していく予定です。

また、平成26年7月の道路法施行規則の改正により、5年に一度の点検と「近接目視」点検が義務付けられました。今後は点検業務量の増加が見込まれ、点検者の技術力向上がいつそう求められることとなります。

本県としては、平成27年度に「橋梁点検士」資格取得への補助や、橋梁点検車の購入及び点検企業への貸与、高所作業車運転技能講習受講に対する補助等きめ細かい施策の実施や、県内・外企業へ分割して発注してきた点検と診断の業務を1業務として共同設計方式で発注するなど、県内の官民双方の技術力向上を図り、将来的には地域の安定したメンテナンスビジネスサイクルを構築していきたいと考えているところです。

5. おわりに

本県の長寿命化対策を推進するためには、貴協会及び会員の皆様の優れた技術が不可欠であります。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

山田町震災復興の今

山田町震災復興事業共同企業体 山田町 CMJV 工事事務所
株式会社 復建技術コンサルタント

有 馬 義 二

1. はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した大地震による津波の影響で、山田町を含む三陸沿岸は甚大な被害を受け、沢山の尊い命が失われた。山田町では人口 1.9 万人のうち約 800 人が命を奪われ、津波とその後の大規模な火災による被災家屋が 56% に達するなど、壊滅的な被害に見舞われた。

山田町の復興まちづくり事業は、復興のスピードアップ、官民の適切な連携、地元企業の活用を図ることを目的として「発注者支援方式」ともいわれる CM (Construction Management) 方式が採用された。

本稿では震災から約 4 年、復興事業が始まってから約 2 年が経過した山田町の今を報告する。

2. 被災状況

山田町は、平成 23 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震 (M9.0) による地震 (震度 5) と津波 (推定高さ 8 ~ 10m、遡上高最大 25m)、そしてその後の大規模な火災により、陸中山田駅を中心とする市街地が広範に渡り焼失した。火災の完全な鎮火には 1 週間を要するほどであった。



図-1 津波による山田町の浸水範囲※
 ※出典：東日本大震災の浸水エリア…山田町資料
 チリ地震、昭和三陸地震の浸水エリア…岩手県資料

3. 事業概要

山田町震災復興事業は、織笠地区 13.7ha と山田地区 56.2ha を対象に、3 種類の事業 (土地区画整理事業、防災集団移転促進事業、津波復興拠点整備事業) により実施されている。

高台部では切土整地し、宅地を造成、嵩上げ部では盛土を行い、公共施設整備・宅地・商業施設の用地を造成、低地部では商業施設の用地を造成することになっている。

事業の完成時期、織笠地区で平成 27 年度、山田地区で一部を除き平成 29 年度完成を目標としている。

織笠地区高台海側の 60 区画は、本年 3 月に完成し、7 月から住宅建設が可能となっている。岩手県内で数十区画単位の大規模な宅地引渡しは初のケースとなる。



図-2 山田町の復興事業概要

4. CM 方式で進められる震災復興事業

「CM 方式」とは、発注者の補助・代行者である CMr (Construction Manager) が、技術的な中立性を保ちつつ、発注者の側に立って、設計や発注、工事監理、工程、品質、コスト管理など、各種マネジメント業務をおこなうものである。期待される効果は以下の 6 点。

- ① 大括り化による、契約手続きの簡素化・期間短縮
- ② コスト & フィー方式で資材高騰等の受注者リスク軽減

- ③全国から職人・資材・重機の早期確保
- ④民間ノウハウ活用による工期短縮
- ⑤オープンブック方式によるコストの透明性確保
- ⑥地元企業の優先活用による地場産業の活性化

山田町は、町づくりのノウハウを持つ UR 都市機構と平成 24 年 3 月 2 日に協力協定を結び、煩雑な CM 方式の事務作業を委託した。そして本震災復興事業は CM 方式で UR 都市機構より発注された。

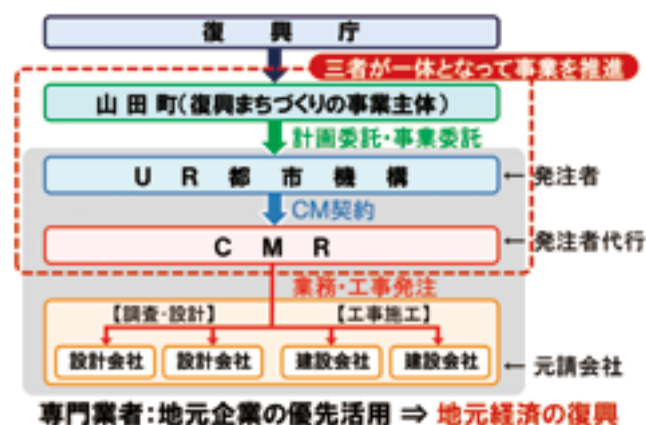


図-3 CM業務の実施体制

5. 復興事業に立ちはだかる壁

復興事業を難しくしているもの、それは関係機関との折衝・調整作業が多いことと用地確保の遅れである。

(1) 関係機関との折衝・調整作業

現在、山田町では復興まちづくり事業の他に、国による復興道路事業、岩手県による防潮堤工事と圃場整備事業等複数の事業が実施されている。その他町づくり事業を進めるためには、JR 東日本、NTT 東日本、東北電力等とも設計協議・施工協議が必要となり、幅広い関係者との折衝・調整作業に多大な労力と時間が必要となる。

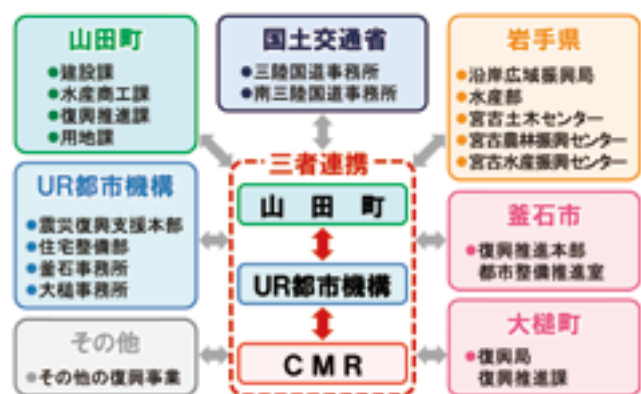


図-4 関係機関

(2) 用地確保の遅れ

織笠地区では今年 3 月に 60 区画の宅地が完成し、残りの宅地も平成 27 年末には完成する。一方山田地区においては、用地確保が進まない場所があり、高台部では計画変更、嵩上げ部では盛土の遅れを余儀なくされている。

用地確保が進まないのは、以下の理由により一筋縄では進まないことである。

- ①地権者との交渉が難航
- ②土地所有者の死亡や行方不明で、土地の相続資格者が相当数に上り、土地の筆界確定ができない。
- ③宅地に金融機関によって抵当権が設定されている。

用地買収には時間が必要、とは聞いていたが難しさを実感している。ただ新しい宅地に引っ越したいと願う仮設住宅に住む人たちのことを思うと、早く解決して欲しいと祈るばかりである。

6. 一コンサルタントの愚痴

①変更修正作業が多い

業務範囲と業務量が膨大で、用地確保等設計条件の変更に伴う変更修正作業に追われ、設計が終わったら施工に追われるため、気を休めることができない。

②会議が多い

関係機関との折衝・調整作業が多いこともさることながら、CMJV の工事事務所内でも、設計施工協議、工程会議等が開催され、会議の合間に仕事をしているような感覚にとらわれるときがある。

③職場と宿舎が近すぎる

現場事務所の横に宿舎棟がある。部屋を出てから事務所の机まで歩いて 3 分である。遅刻する心配はないが運動不足が心配になる。

7. おわりに

私が土木の仕事を選んだ理由は、高校のとき進学指導の先生から一言「地図に残る仕事をしないか」だった。期せずして震災という不幸な出来事により、約 80ha もの広さの復興事業に携わることができた。

「みんなで取り戻す、ひとの笑顔、元気な産業、碧い海とともに暮らす町」。これは、山田町復興計画にある山田町の将来像である。地図に残る仕事はできた、私は、この事業を通して山田町の人の心に残るような仕事をしていきたい。

技術者として母として

東京コンサルタンツ株式会社 東北支店 技術部 鈴木 裕 美

1. 技術者として

小学生の頃に父にプロジェクトXを見せられ、感銘を受けたことを今でも覚えています。その頃から物作りに携わりたいと思うようになりこの業界に進むことを選びました。就職した当時はまだ女性の技術者は少なく、東京コンサルタンツ東北支店では初めての女性技術者でした。入社した当初に「女性として扱わないで大丈夫です」と支店長に話したことを覚えています。私の中で、男性社会の業界に入った中で「女性だから」と言うレッテルを貼られるのが嫌だったのです。その背景には女性技術者の雇用が注目され始めた頃でしたが、女性には厳しい仕事だと言われていたこともあります。

現在技術者として7年目となり、様々な業務に携わるようになりました。確かに厳しい仕事ではありますが、楽しさもあり、設計した構造物が竣工した際の充実感を味わえるのはこの業界の魅力だと感じています。夢を持って仕事が出来るということは幸せであり、また、自分の成長の糧になると思います。

2. 子育てと仕事

現在、女性の社会進出が進み、働いている母親はたくさんいますが、時間の制約がある中でこの業界で母親として働いて行くことは大変なことだと思います。私には現在3歳になる娘がおり、出産したのは技術者としてまだ4年目の時でした。出産後の復帰について迷いはありませんでしたが、産休の取得、育児休業、復帰後の仕事など様々な不安がありました。今でも子供の急な発熱、怪我などで早退することも多々あります。しかし、技術者としてやりがいのある仕事を続けることを選べた状況に自分がいたことがとても幸せであり、それには会社と夫の理解と協力が大きかったです。深夜まで働いて、家事も完璧には出来ない状況を助けてくれる夫には感謝しています。また、寂しい思いをさせている子供が「ママお仕事頑張って」と笑顔で送り出してくれることが励みになります。この業界で働き続けるには、理解し、支え合えるパートナー（会社、家庭）に巡り会えなければ難しかったと思い

ます。

3. 女性技術者の働きやすい環境

昨今、女性技術者の需要が増えている中で、女性が働きやすい環境を整えることにより女性の活躍の場が広がると思います。

技術者としては男女関係ありませんが、子育てはどうしても女性が主体となってしまいます。時間の制約を受ける中で働くためには、「長時間勤務の抑制」、「保育所の充実」が求められます。子育て支援など様々な取り組みが実施されていますが、女性の社会進出が先に進んでしまい、まだまだこれからの課題だと思います。

4. 今後の働き方について

この業界では、長時間勤務が常習化している中、私は家庭の事情で残業が出来ません。しかし、繁忙期は再出社し深夜作業を行う時もあります。体力がある今だから出来ることです。近年では業界全体でノー残業デーの実施を行うなど、対策を行っていますが、自分自身の意識改善が必要であり、短時間でも満足できる仕事を実施しなければならないと思います。

また、女性技術者の需要が求められる中で女性としての視点・観点を活かし、技術者として活躍出来るようになりたいと思います。



仕事風景
(誰も一緒に映ってくれませんでした…)



娘の成長が楽しみです

NAHA マラソン奮闘記

株式会社ニュージェック 播 磨 進

NAHA マラソンは、毎年12月の第一日曜日に開催されるイベントです。H25、H26の2年、会社の仲間と一緒に参加しました。いずれの年も制限時間内に完走することができました。我ながら、64歳にしてよく走ったと思います。どうして走るようになったか、また走っているときの状況などについて、これから書いていこうと思います。

1. 走るようになるまで

10年ほど前、体重76kgと身長割にはかなり太っていて、お腹もだいぶ出ていました。健康診断では、肝臓がフォアグラ状態などと言われたこともあり、体調がすぐれない日々が続きました。そんな時、知人の紹介である漢方医と会いました。いろいろと話したり体を見てもらったりしましたが、「とにかく痩せなさい、痩せないと長くないよ。」とまで言われました。半年間、〈朝は味噌汁1杯、昼はおにぎり2個、夜は普通に〉という食事制限をしてからもう一度来なさいということでした。このままではいけないと思い始めていたころだったので、ちょうど良い機会だと思い、一念発起して言われた通り実践しました。すると半年で10kgも体重が減りました。体調も良くなり、もう一度行くと、「もう何もしなくてもいいけど、その体重をキープすることと、処方する漢方薬を飲みなさい。」と言われました。体重をキープするには食事制限を続けるか、運動をするしかないので、それから毎日、朝40分歩くことに決めました。歩き始めてから3年、調子が出てきて歩くだけでは物足りなくなってきました。ちょうど仙台に単身赴任することが決まり、職住接近生活が始まるのを機に、毎朝走ることにしました。また、ゴルフのスコアアップのためには、足腰を鍛えなければというのも大きな動機でした。体重は3kgほどリバウンドして69kgになっていましたが、さほど抵抗なく走ることができました。やはり毎日歩いていた効果が出たなと思いました。

それから3年くらいは約3km走っていましたが、脚力もついてきたのかもう少し距離を伸ばしてもいいかなと思い、毎日5km走るようにしました。さすがに

5kmは長く、初めはつらかったのですが、だんだん慣れてきて、今では時々10kmを走るまでになってきました。平均的には6.5分/kmのペースで走っています。雨の日、早出の出張、二日酔いなどで走れない日もありますが、できるだけ4日/週は走るように心がけています。走るようになってから良かったことがいくつかあります。まず、風邪をひかなくなりました。もともと呼吸器系はあまり丈夫ではなく、よく気管支炎を起こしていたのですが、今では季節の変わり目さえ注意していれば大丈夫になりました。次に、仕事で難しい状況に置かれても、走ることで気持ちの切り替えができるようになったことです。走るときはあまりいろいろ考えません。音楽も聞きません。周囲の景色を見ながら、音、においを感じ、体の痛みや疲れを感じ、ひたすら走るだけです。四季折々の風景、風の音、水の音、犬、猫の鳴き声、草の匂い、自動車の音、排気ガスの臭いなど、五感で感じることはたくさんあります。走り終わってシャワーを浴びた後の爽快感は格別です。思い込みかもしれませんが、ゴルフも上がり3ホールスコアが良くなって来たような気がします。



写真-1 榴岡公園のしだれ桜。走行中に撮影。

2. 松島マラソン

こうなると欲が出てきて、自分の力を試してみたいくなります。そんな折、毎年松島マラソンが開催されていることを知り、参加することにしました。松島マラソンは、ハーフマラソン、10km、5kmの3つの距離があります。参加者は毎年8,000人程度です。私はこれまで3年続けて参加しました。始めの年は走ったこ

とのある距離で自信もあるので10kmにしました。アップダウンが多くタフなコースでしたが、1hr6' 00"で問題なく走ることができたので、あと2年はハーフマラソンに挑戦しました。スタート及びゴール地点は松島町民グラウンドで、奥松島パークライン（県道27号）を東に向かって走り、鳴瀬川河口で折り返して帰ってくるコースです。



図-1 松島マラソンコース（HPから抜粋）

ハーフマラソンはさすがの距離があり、アップダウンも多く、きついランでしたが、2年とも途中歩くこともなく完走しました。特に2年目は、西風の強い日で、折り返した後の向かい風がとても辛かったことを覚えています。突風が舞い上げる砂埃が目に入るなど、かなり厳しいランでした。それでも、時折見える松島の風景を楽しみながら走りました。沿道では多くの人々が応援してくれてとても励まされました。時間内に無事ゴールし、タイムは2年とも2hr15' ~ 20' 程度。ゴール後は、近くの「芭蕉の湯いやしの館」で風呂に入り、ビールを飲んで充実した一日でした。

完走したことが嬉しくて、会社でいろいろな人に話していると、以前から社員10名ほどで沖縄のNAHAマラソンに参加していることを知りました。7月の初め頃だったと思います。これまで長距離は、高校時代に50kmの競歩大会に出たくらいでほとんど経験がありません。ちょっと怖い様な気がしましたが、途中で歩いてもいいやと気楽に考え、一緒に参加することを決めました。

3. NAHA マラソン

さて、いよいよNAHAマラソンです。全日空のNAHAマラソン専用のパッケージツアーがあり、航空費（東京～那覇往復）+宿泊費2泊=60,000円で行くことができました。安い!!前日の午後、会場入りし、ゼッケンとJチップ（タイム計測用、靴に装着）を受け取り、ホテルで十分休息をとりました。当日は7:30頃会場入りし、一緒に参加するメンバーと公園の一角にベースキャンプを作り、準備体操などで体をほぐしていました。8:30頃には集合の合図がかかり、スタートラインに並びます。並ぶといっても何しろ30,000人ですから、列の長さは1km位にはなるのでしょうか。皆、

思い思いのウェアに身を包み、談笑したり、写真を撮ったりしてスタートを待っていました。

9:00!!スタートです。初めは7.5分/km程度のゆっくりしたペースで走りました。周りの若い人は元気がよく、私を追い抜いてゆきます。それにつられると後できつくなるのはわかっているので、意識してゆっくり走るようにしました。15km付近までは比較的平坦で走りやすく、体の調子も良かったので最後まで走れるかなと思っていました。

街中や人家のあるところでは、多くの人々が応援してくれました。楽器による演奏やダンスを踊ったりし



写真-2 スタート地点付近。参加者約30,000人



写真-3 6km地点付近。中央の青シャツが私。

（HPに写真コーナーがあり、ゼッケン番号を入れると自分の写真が出てくる。焼増し1500円/枚）



図-2 NAHAマラソンコース（HPから抜粋）

て応援してくれる人達もいます。果物、飴、氷、水、塩などをお皿に乗せて提供してくれる人達もいます。拍手をしながら声援を送ってくれる人達もいます。頑張れ！という声援を受けながら、皆、一生懸命走っていました。水場は5km ごとにありますが、

地域の人達、企業などがボランティアでやっているようです。応援してくれている人たちもこの大会を楽しんでいるようでした。

18km 付近を走っていた時、沿道のラジオから「今、埼玉県庁の川内選手がゴールしました」という音声が続いたときはびっくりしました。さすが一流選手は違う。

17km 付近から中間地点まではずっと登りで非常にきついランとなってきました。ここでめげるわけにはいかないと頑張っ走りしました。この辺ではまだ頑張りが効きました。何とか中間地点を過ぎると、今度は下りが主体のコースになります。しばらく下り坂を走っていると、右の脛が猛烈に痛くなってきました。骨が折れたのではないかと思うような痛さですが、走れるので折れているわけではないようです。やめようかと思った矢先、平坦部に入ると痛みが和らいできました。下り坂のせいで脛に負担がかかったのかもしれませんが。25km 付近になると足の裏がかなり痛くなり、歩きたい誘惑に駆られるようになりました。27km 付近でとうとう歩き始めました。所要時間 3hr15'、平均 7 分 / km でした。



写真-4 ゴール地点。H25の写真。(H26のゴール写真はなかった。)



写真-5 走り終えて (ベースキャンプにて)

これから 15km、走ったり歩いたりして制限時間内にゴールしなければなりません。34km まで歩いて、

また走り始めたのですが、長くは持たず 37km でまた歩き始めました。一旦歩いてしまうと、そのあと走るのは難しくなります。沿道の声援に励まされながら、ランと歩きを繰り返し、最後の方はゴール後に待っているビールのことだけを考えていました。最後の 1 km はさすがに歩かず、表面的には余裕の表情でゴールしました。タイムは 5hr33' 53"。制限時間まで 45 分を残して走り切りました。去年は、5hr23' 27" なので、ちょっと悔しかったのですが、1 歳年を取ったせいだと思うことにしました。



写真-6 一緒に走った仲間たち

所定の場所で完走証、完走記念メダルを貰い、ベースキャンプに直行。

オリオンビールが美味かった!! 生ビール 2 杯も飲んでしまいました。これがあるからやめられません。また来年もフルマラソンに挑戦しようと思った瞬間です。一緒に走った仲間は 10 人ですが、3 番目に早いタイムでした。それもちょっとうれしかった。ホテルに戻り風呂に入り一休みして、張り切って夜の反省会に出かけました。そのあとのことはよく覚えていません……。

4. 終わりに

2 年続けて完走でき、私のランニング人生にもかなり自信ができました。これからも、年に 1 回はどこかでフルマラソンを走ろうと思っています。

建設コンサルタントの仕事は、高い技術力を持ち、最新の技術にも目を配り、所定の工期内に最高の成果品を作成することです。そのためには、日々の学習だけではなく、それを遂行できる体力が必要です。幸い、仙台をはじめとして東北管内で勤務している方は、職住接近の方が多いと思います。今からでも遅くありません。時間を見つけて体力作りに励んではいかがですか。朝の散歩からでもよいと思います。できる範囲で、ちょっと頑張っ続けていると、次のステップに行きなくなるはずですよ。大事なことは途中でやめないことです。

協会員の皆さんのこれからの健康と発展を祈念して筆をおきたいと思います。

河川・環境合同現場見学会に参加して

八千代エンジニアリング株式会社 東北支店
業務企画部 営業課

佐藤 正 隆

1. はじめに

今回の見学会は、2014年10月27日に建設コンサルタンツ協会東北支部および国土交通省東北地方整備局職員の方々の参加にて開催されました。

私は今年の4月に入社し、7月に東北に配属となりました。建設コンサルタント業界で踏み出すための1つのきっかけ、また東北の建設事情を実感する機会と捉えて今回の見学会へと臨みました。

2. 見学会の感想

(1) 名取川（太白大橋下）

名取川太白大橋下の河川敷部分には、樹木の繁茂が見られました。頂いた資料に過去の河川敷の航空写真がありましたが、比較すると現状では繁茂が著しくなっていることが分かりました。参加した当初は、「樹木が繁茂することで、どういった影響があるのだろう」といった疑問を抱いていましたが、参加された方に質問をさせていただいた中で、流れを阻害する要因になってしまうということを学びました。また、流れの阻害は治水上影響を及ぼすが、そのための樹木伐採は環境にも影響を及ぼすものだと感じ、今後の河川管理における課題の一つを、身をもって知ることができました。

(2) 関上地区

東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた関上地区では、名取川河口部堤防の施工現場を見学させていただきました。

津波の爪痕が深く残っている様子に、自然災害の恐ろしさを感じました。しかしその中で、軟弱地盤を改良し粘り強さを持つ堤防の施工に取り組む様子に、同様の被害を防ごうと最先端の土木技術が動員されていることを感じ取りました。



関上地区：施工状況（地盤改良）

(3) 仙台湾南部海岸

仙台湾南部海岸では、被災した地域を公園として造成している現場を見学させていただきました。その中には丘状の構造物が点在しており、これらは災害時の避難場所として同様の被害を防ぐとともに、震災伝承のシンボルとして後世に語り継ぐ施設であることを知り、感銘を受けました。

またここで施工されていた防潮堤は、部分的に緑化を施しているということを知り、環境・景観にも配慮した構造物の施工がなされているのだと感じました。



仙台湾南部海岸：津波避難・伝承の丘

(4) 荒浜地区

阿武隈川河口域においては、事前に頂いた資料らびに現地での説明により土砂堆積、侵食による砂州の形状変化が起こっていることを知りました。この点についても河川から正常に水がはけなくなる、砂州の変化による生態環境への影響など、河川・海岸・環境等他分野からの視点から取り組んでいかなければならない課題なのだと感じました。

3. おわりに

見学会後には、仙台河川国道事務所にて東北地方整備局職員の方々と河川・環境専門委員会メンバーによる意見交換会も開催されました。日常業務とは異なる場での意見交換であり、両者が率直な意見を交わして討論する場になっていたのではないかと感じました。

私は今回の見学会を通して、河川・環境分野の業務や東北での復興事情等を学ぶことができました。また土木における幅広い分野の知識を今後身につけ、よりよい提案ができる技術者を発注者とマッチングさせることができる営業マンになりたいと強く感じました。

最後に、運営をしてくださった建設コンサルタンツ協会東北支部河川・環境専門委員会の方々に、現場見学の際に説明をしてくださった東北地方整備局の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

河川及び環境専門委員会合同現場見学会に参加して

株式会社 復建技術コンサルタント
計画部 環境課

鷲 田 なぎさ

1. はじめに

私は、平成26年10月27日に（一社）建設コンサルタンツ協会主催で開催されました河川及び環境専門委員会合同現場見学会に参加いたしました。国土交通省職員の方々のご案内によって、以下の4箇所を見学させて頂き、また最後には意見交換会の場を用意して頂きました。

- ・ 太白白大橋（名取川右岸 9.0k 付近）
- ・ 名取川河口部（名取市関上）
- ・ 仙台湾南部海岸（岩沼市北釜）
- ・ 阿武隈川河口部（亘理町荒浜）

2. 見学会の感想

私は社会人2年目であり、現場経験が多くない中で、様々な現場を見学させて頂けることはとても貴重な機会でありました。また、環境分野に従事しているので、河川分野についてなじみが少なく、河川分野を知るととても良い機会となったと思います。

(1) 太白白大橋（名取川右岸 9.0k 付近）

最初に見学させて頂いた太白白大橋では、名取川河道内の樹木状況を見学しました。河川整備による出水・洪水の減少と並行して、砂利採取等による攪乱により河道の樹林化へつながった現状の説明を受けました。そのことが流下能力の低下へつながり、逆に治水面で悪影響を及ぼすようになること、樹木部にはとくに鳥類の生息域となっているため、容易に伐採等の手段を取れないこと等の複雑な問題に発展しており、治水面と環境保全の面から河川の維持管理を検討することの難しさを感じました。



名取川河道内の樹木状況

(2) 名取川河口部（名取市関上）

名取川河口部では、津波により大きく形状や環境が変化した海岸部の見学をさせて頂きました。津波により攪乱された生態系の回復状況、河口砂州・砂浜等の地形の回復状況との関係性がとても興味深く思いました。

(3) 仙台湾南部海岸（岩沼市北釜）

仙台湾南部海岸では、海岸堤防と「緑の防潮堤」と

して実施されている堤防の裏面への植樹の状況を確認しました。通常の業務では、海岸堤防を見る機会は少ないので、その機能や構造を知る絶好の機会となりました。また、海岸堤防における環境保全対策を学ぶことができ、とても勉強になりました。



海岸堤防における植樹状況

(4) 阿武隈川河口部（亘理町荒浜）

名取川河口部と同様に、震災による海岸地形の攪乱・回復による環境の変化を見学しました。同じ河口部といっても、名取川と阿武隈川では砂州の形状や環境条件が全く異なり、河口部における環境の複雑さ、それに対する保全対策の提案の困難さを痛感しました。どちらの堤防でも法面の植栽が進められていましたが、所々裸地が確認でき、環境保全対策の効果を発揮することはとても難しいことを感じました。

(5) 意見交換会

国土交通省職員の方々と参加者の間で意見交換がされました。若輩の私にとっては、意見を交換するというよりも、拝聴して学ぶ場となりました。なかなか発注者と受注者という垣根を越えて意見を交換する場はないのでとても新鮮に感じました。発注者の率直な意見を感じることができ、普段の業務に活かしたいと思いました。

3. おわりに

今回の現場見学会では、河川法における利水・治水の面と環境保全の面を学ぶことができ、よい経験になったと思います。また、治水・利水と環境保全の丁度良いバランスを発注者に提案することが私たち建設コンサルタントの役割であると感じました。自身の専門の分野の知識を深めることはもちろんですが、他分野の知識を有していることで、より発注者に対して有効な提案が出来ると思うしました。

最後になりますが、見学会を主催して頂いた（一社）建設コンサルタンツ協会の皆さま及び国土交通省の職員の皆さまに感謝申し上げます。

東北への想い

株式会社 構研エンジニアリング 東北営業所 所長 荒 栄 記

当社は、昭和47年に橋梁を主体としたコンサルとして、北海道札幌市にて営業を展開しその後、道路・橋梁・防災・河川・環境・地質調査と専門分野を増設し総合建設コンサルタントとして42年の歳月を営んできました。

当社では、「北の大地から安全・安心で豊かな社会づくりに貢献する」をモットーに職員一同、社会資本整備に取り組んでいるところです。

当社が東北営業所を開設するきっかけとなったのは、2011年3月11日の東日本大震災の発生により、東北地方の太平洋側（青森～福島）を視察し、壊滅的な被害を受けた東北地方での惨状を目の当たりにして、自然の脅威を思い知らされたと同時に、何か復旧復興の貢献ができないかとの思いが会社を動かし、2011年11月頃より準備をはじめ、2012年3月仙台市青葉区に開設する運びとなりました。

営業所開設後、2012年4月建設コンサルタンツ協会東北支部に入会させていただき活動しているところです。また、昨年6月には、「E E東北'14」（写真1）へも参加し、当社のPRを兼ねて防災・減災に関する技術紹介をいたしました。

開設後3年の月日が過ぎ、おかげさまで東北地方整備局と宮城県からの受注をうけ微力ながら復興の一端を担い営業しております。

さて、北海道は日本各地から移住者がやってきて開拓されて、北海道が成り立っています。どこからの移住者が多いかを調べてみると、もっとも多いのは東北地方や北陸地方で、全体の7割にもなるそうです。東北地方からは、多い順に青森県、秋田県、宮城県、岩

手県、つづいて山形県、福島県となっているようです。

（北海道ファンマガジンより）

このように、今回の東日本大震災での被災に関しては、北海道民として他人事とは思えません。

私事ですが、私の先祖は宮城県からの入植と聞いており、また東松島市にある親戚にも震災による被害が及んでいたことなど、当社が東北での営業所開設には、私にとっても大きな意味があると感じております。

最後ですが、まだまだ大震災による被災箇所が多く残されている中、当社ではより一層、復興・復旧に努力していきたいと考えており、建設コンサルタンツ協会東北支部の一員として、東北支部の皆様とともに更なる防災・減災に力を注いでいきたいと思っております。



写真1 E E東北'14ブース

株式会社 構研エンジニアリング 東北営業所 （平成24年4月入会）

所在地：仙台市青葉区柏木1丁目1-53-203

TEL：022-344-6231

FAX：022-344-6175

本社：札幌市東区北18条東17丁目1-1

TEL：011-780-2811

FAX：011-785-1501

URL：<http://www.koken-e.co.jp>

水の総合コンサルティング 潤いある未来へ

株式会社 日水コン 東北支所長 大久保 昌 彦

弊社は、水に関わる多様な事業分野をコンサルティングする企業です。昭和34年の創業以来、お蔭をもちまして半世紀を越えて様々なコンサルティングサービスを提供して参りました。

弊社東北支所は、オイルショックが冷めやらぬ昭和55年1月、前身の仙台出張所（水道部門のみ）から、下水道部門の併設による組織拡充によって支所に格上げされ、東京（本社）、大阪、九州、北海道、名古屋、広島に次いで、全国で7番目の地方拠点として、東北支所が誕生しました。弊社にとって受難の時期を乗り越えようとしていた厳しい折の支所拡充は、当時の経営層の先見性ある英断であったと思います。以来、36年目を迎えている今日に至るまでの間、時流に乗って支所員増員、支所の移転拡張を経ながら、そしてまた一方で、幾多の困難を乗り越えながら歩んで参りました。

東北支所の現在の組織は、水道部門・下水道部門・河川部門及び、営業部門で構成され、東北6県の各部門関連分野を営業対象としています。また、各県の出先として、青森市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市に事務所を配置し、加えて、震災復興支援対応として、石巻市に石巻復興事務所を配備しています。

弊社のアイデンティティーを皆様に理解していただくために、弊社の基本的な経営方針と主張であり、そしてまた、傘下に属する関係者の精神的支柱とも言える「社是」（写真参照）について紹介させていただきます。

弊社の社是は、創業社長が中心となって昭和37年に制定したもので、以来半世紀を過ぎてなお、常に次

代に調和し、年年歳歳社業の進展を照らしてきました。全文は写真に示すとおり、二段で構成されています。簡にして要、要にして深い味わいが伝わってきます。

前段では社業存立の目標が示され、たゆまぬ研鑽に基づく「高度な技術」の提供により、「企業としての社会的責任」を果たしていくことの使命が表現されています。後段では会社構成員の心構えが示され、常に「品格」の向上に努め、「和」をもって互いに協力し、会社の使命を実践していくことが謳われています。

創業50周年（平成21年）を機に制定したスローガン“潤いある未来へ”を広く内外に掲げ、支所員並びに関係者一同、この社是に恥じるようなことの無いよう、日々努力して参りたいと思っています。

社会経済情勢の厳しい趨勢に呼応すべくコンサルタントに大きな変革が求められ期待されています。常に挑戦し続ける集団として今後も社業に邁進して参ります。結びに、東北の復興と創生・発展を祈願すると共に、建設コンサルタント協会の一員として、微力ながら協会の発展に尽くして参ります。

会員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。



（株）日水コン 社是

 株式会社 日水コン 東北支所 (平成25年10月1日入会)

所在地：〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17 TEL：022-222-1101 FAX：022-265-7634

本社：〒163-1122 東京都新宿区西新宿6-22-1 TEL：03-5323-6200 FAX：03-5323-6480

URL：http://www.nissuicon.co.jp

平成26年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重要事業としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の「要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事会に諮り議題を決め、平成26年10月23日の秋田県建設部を始めに年明け1月29日の宮城県土木部で終了しました。

秋田県建設部との意見交換会

日 時 平成26年10月23日

出席者 (県) 石黒 建設技監他 7名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 19名



石黒 建設技監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタンの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. 建設コンサルタンの活用実態について
5. 災害協定について

山形県県土整備部との意見交換会

日 時 平成26年10月24日

出席者 (県) 上坂 県土整備部長他 12名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 19名



上坂 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタンの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. 建設コンサルタンの活用実態について

青森県県土整備部との意見交換会

日 時 平成26年11月5日

出席者 (県) 奈良 県土整備部長他 13名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 21名



奈良 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタンの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. 建設コンサルタンの活用実態について

福島県土木部との意見交換会

日 時 平成26年11月12日

出席者 (県) 室井 土木部次長他 7名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 22名



室井 土木部次長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタンの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. 建設コンサルタンの活用実態について
5. 東日本大震災の復興事業について

岩手県県土整備部との意見交換会

日 時 平成 26 年 11 月 28 日

出席者 (県) 佐藤 県土整備部長他 5 名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 15 名



佐藤 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. 建設コンサルタントの活用実態について
5. 東日本大震災の復興事業について

宮城県土木部との意見交換会

日 時 平成 27 年 1 月 29 日

出席者 (県) 遠藤 土木部長他 7 名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 20 名



遠藤 土木部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
2. 魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
3. 安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
4. そ の 他

東北地方整備局との意見交換会

日 時 平成 27 年 2 月 6 日

出席者 (整備局) 安田 企画部長他 6 名
(協 会) 遠藤支部長他幹事 21 名



安田 企画部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 事業執行状況について
2. 品質確保・向上について
3. 入札調達制度について
4. 長期的な担い手の確保に向けて
5. インフラ保全・老朽化対策について

秋田県と災害時における調査・設計等の応急対策業務に関する協定の締結

協定締結式

日 時 平成 27 年 3 月 25 日

出席者 (県) 堀井副知事他
(協会) 遠藤支部長他



秋田県堀井副知事と遠藤支部長

平成26年度 RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM 資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し24年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又は RCCM 資格保有者と規定されました。

平成26年度の RCCM 資格試験は平成26年11月9日仙台会場（東北工業大学）で実施され、636 名が受験され、157 名が合格しました。

なお、平成27年度の RCCM 資格試験は、平成27年11月8日の予定です。

平成26年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成26年11月9日

合格発表 平成27年2月28日

受験地 部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
1. 河川、砂防及び海岸	149	42	28.2	188	56	29.8	202	58	28.7	3	1	33.3	104	22	21.2	94	23	24.5	92	19	20.7	83	16	19.3	915	237	25.9
2. 港湾及び空港	45	8	17.8	26	0	0.0	26	8	30.8	9	1	11.1	15	3	20.0	9	3	33.3	12	4	33.3	10	1	10.0	152	28	18.4
3. 電力土木	4	2	50.0	5	0	0.0	7	1	14.3	1	0	0.0	3	2	66.7	7	3	42.9	0	0	0.0	1	0	0.0	28	8	28.6
4. 道 路	279	59	21.1	282	68	24.1	319	70	21.9	51	9	17.6	147	40	27.2	176	38	21.6	183	56	30.6	121	25	20.7	1558	365	23.4
5. 鉄 道	7	3	42.9	5	1	20.0	2	1	50.0	0	0	0.0	0	0	0.0	8	1	12.5	0	0	0.0	2	2	100.0	24	8	33.3
6. 上水道及び工業用水道	44	6	13.6	66	9	13.6	47	14	29.8	16	3	18.8	9	1	11.1	35	16	45.7	15	2	13.3	23	7	30.4	255	58	22.7
7. 下水道	87	27	31.0	47	10	21.3	62	19	30.6	17	3	17.6	7	2	28.6	40	16	40.0	28	4	14.3	32	3	9.4	320	84	26.3
8. 農業土木	48	10	20.8	32	12	37.5	88	39	44.3	8	2	25.0	31	8	25.8	45	29	64.4	21	4	19.0	20	9	45.0	293	113	38.6
9. 森林土木	27	5	18.5	22	6	27.3	36	12	33.3	1	0	0.0	4	3	75.0	24	6	25.0	15	6	40.0	20	9	45.0	149	47	31.5
10. 造 園	15	5	33.3	9	1	11.1	5	2	40.0	4	1	25.0	5	1	20.0	7	2	28.6	3	0	0.0	0	0	0.0	48	12	25.0
11. 都市計画及び地方計画	80	21	26.3	33	6	18.2	40	14	35.0	12	2	16.7	4	1	25.0	24	9	37.5	22	5	22.7	8	3	37.5	223	61	27.4
12. 地 質	17	9	52.9	31	7	22.6	40	12	30.0	2	0	0.0	9	4	44.4	12	4	33.3	26	11	42.3	13	4	30.8	150	51	34.0
13. 土質及び基礎	71	20	28.2	89	23	25.8	97	23	23.7	21	6	28.6	38	5	13.2	53	22	41.5	62	12	19.4	39	7	17.9	470	118	25.1
14. 鋼構造及びコンクリート	166	53	31.9	156	51	32.7	142	25	17.6	9	3	33.3	47	14	29.8	93	30	32.3	77	10	13.0	48	12	25.0	738	198	26.8
15. トンネル	24	11	45.8	10	3	30.0	23	11	47.8	0	0	0.0	8	3	37.5	6	3	50.0	7	4	57.1	10	8	80.0	88	43	48.9
16. 施工計画、施工設備及び積算	89	27	30.3	63	10	15.9	60	13	21.7	18	2	11.1	18	6	33.3	27	13	48.1	37	11	29.7	29	8	27.6	341	90	26.4
17. 建設環境	62	11	17.7	35	13	37.1	25	8	32.0	7	1	14.3	47	12	25.5	16	6	37.5	13	4	30.8	20	9	45.0	225	64	28.4
18. 機 械	8	3	37.5	3	0	0.0	4	2	50.0	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	17	5	29.4
19. 水産土木	5	2	40.0	0	0	0.0	13	8	61.5	4	1	25.0	10	3	30.0	0	0	0.0	5	3	60.0	4	3	75.0	41	20	48.8
20. 電気・電子	57	14	24.6	31	5	16.1	14	8	57.1	2	0	0.0	12	5	41.7	10	3	30.0	7	2	28.6	11	3	27.3	144	40	27.8
21. 廃棄物	5	3	60.0	2	0	0.0	2	0	0.0	1	1	100.0	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	11	4	36.4
22. 建設情報	29	2	6.9	21	5	23.8	10	2	20.0	0	0	0.0	10	3	30.0	16	2	12.5	10	0	0.0	5	1	20.0	101	15	14.9
合 計	1,318	343	26.0	1,156	286	24.7	1,264	350	27.7	186	36	19.4	529	138	26.1	703	229	32.6	636	157	24.7	499	130	26.1	6,291	1,669	26.5

平成26年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっている。

平成26年度の登録更新講習会は、平成10、14、18、22年度の「RCCM 資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（ホテルメトロポリタン仙台）では、平成26年10月3日午前・午後に分かれて実施され、510名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

午前の部

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 挨拶・講話 | (一社) 建設コンサルタンツ協会 常任理事 馬場 直 俊 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | 筑波大学 教授 石田 東 生 |
| 3. 建設コンサルタントの現状と課題 | (公財) リバーフロント研究所 研究参与 竹村 公太郎 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 | |

午後の部

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 挨拶・講話 | (一社) 建設コンサルタンツ協会 常任理事 馬場 直 俊 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | 早稲田大学 教授 佐々木 葉 |
| 3. 建設コンサルタントの現状と課題 | (公財) リバーフロント研究所 研究参与 竹村 公太郎 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書 | |

平成26年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会 場		名	申 込 者 数	受 験 者 数	受 講 率	実 施 月 日
札 幌		午前	191	191	100.0%	10月 9 日
		午後	247	245	99.2%	
仙 台		午前	224	221	98.7%	10月 3 日
		午後	288	289	100.3%	
東京	第一	午前	265	261	98.5%	9 月29日
		午後	252	254	100.8%	
	第二	午前	212	211	99.5%	11月21日
		午後	268	268	100.0%	
	第三	午前	105	106	101.0%	12月10日
		午後	145	142	97.9%	
新 潟		午前	98	98	100.0%	10月18日
名古屋	第一	午前	251	249	99.2%	10月20日
		午後	272	274	100.7%	
	第二	午前	75	75	100.0%	12月 2 日
		午後	62	62	100.0%	
大阪	第一	午前	233	232	99.6%	10月16日
		午後	279	279	100.0%	
	第二	午前	108	105	97.2%	11月26日
		午後	119	119	100.0%	
広 島		午前	167	168	100.6%	10月23日
		午後	212	211	99.5%	
高 松		午前	181	180	99.4%	10月28日
		午後	109	110	100.9%	
福岡	第一	午前	248	247	99.6%	10月 1 日
		午後	286	287	100.3%	
	第二	午前	90	90	100.0%	12月 8 日
		午後	132	130	98.5%	
沖 縄		午前	176	173	98.3%	12月 4 日
合 計			5,295	5,277	99.7%	

総務部会の活動

総務部会長 中 村 秀 人

1. 総務部会の担当行事

総務部会は H25 年の組織再編成で厚生委員会から総務部会へと名称が変更になりました。

活動内容は研修会開催や RCCM 資格試験の運営、会員相互の親睦を目的とした健康増進やリフレッシュ行事の企画・実施です。また、高校生橋梁模型作品発表会にも実行委員として参加しています。

2. メンバー紹介

委員は以下のとおりです。少数精鋭で老体にムチ打って頑張っております。皆様の温かいご支援とご協力をお願い致します。

部 会 長	：中村秀人	(株)長大
副部会長	：熊谷茂一	応用地質(株)
委 員	：千葉和夫	ダイヤコンサルタント(株)
委 員	：村山高夫	大日本コンサルタント(株)
委 員	：関 孝和	(株)復建技術コンサルタント
委 員	：渡辺智晴	アジア航測(株)
委 員	：石井賢司	セントラルコンサルタント(株)

3. 活動内容

今年度は以下の行事を企画・実施しました。

● バーベキュー H26.8.23(土)

キリンビール工場の見学と敷地内でのバーベキューを楽しみました。当日は快晴の暑い一日でビール工場見学日和？でした。お子様4名を含む計51名の方に参加して頂き盛大な催しとなりました。

中には絞りたてビールの試飲だけでお腹一杯になり、肝心のバーベキューが入らなくなった方もいたようです。昨年度までは秋口に芋煮会を開催していましたが、今年は夏の行事を企画させていただきました。いかがだったでしょうか？



ビールってこんなふうには作ってたんだ



晴天の中親睦を深めることが出来ました

● ボウリング大会 H26.11.21(金)

恒例となったボウリング大会は、用意した8レーン(貸切り)全て埋まる32名に参加いただきました。

各社におかれましては平日の定時退社に向けて、業務や時間調整などご協力いただき感謝いたします。

ハンディキャップもあり、豪華賞品を狙って個人戦、チーム戦など老若男女熱い戦いとなりました。この日のために前日練習してから参加された方もいた様です。終了後は参加賞もあり、皆さん笑顔で体も気持ちもリフレッシュされた様子が伺えました。



真剣勝負です

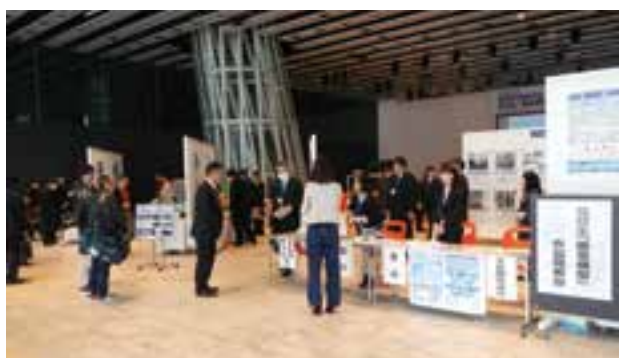


来年に向けて明日から練習だ！

● 高校生橋梁模型作品発表会 H27.2.12(木)

この発表会は、土木技術を学び将来の社会資本づくりを担う高校生に、模型づくりを通じて橋の種類や構造に関する知識を深めてもらうとともに、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的としています。社会や教育の場から「土木」という言葉が消えかけ、建設業界に入ってくる若者が減少していく状況の中、官民学が協力して新しい担い手を確保しようというイベントでもあります。

総務部会では、実行委員の一員として実行委員会への参加と、発表会当日は会場設営補助や受付を担当しています。また、技術部会から応援をいただき審査員としても参加しています。(共催団体：東北地整東北技術事務所、橋梁建設協会、PC 建設業協会、東北地域づくり協会、橋梁調査会、建設コンサルタンツ協会)



建コンは受付担当で一般来場者へ投票方法を説明します

今回は、東北6県の高等学校から20校37作品の応募があり、1/23に実施された一次審査を通過した10作品が会場に展示されました。各校年々模型のレベルが高くなり、甲乙つけがたい作品が並びました。

当日来場された一般の方からも投票いただき、審査員が採点した評価点と合わせて最終順位が決定しますが、今回は150名を超える多数の一般投票があり、最終順位にも変動があったようです。



一次審査を通り展示された10作品

また、各校にプレゼンテーションの時間が設けられ、模型作成における工夫や苦労などの発表がありました。こちらも力の入ったレベルの高い戦いが繰り広げられました。



プレゼンに聞き入る審査員の皆様

今回は、参加した高校生や投票に来ていただいた一般の方を対象に、本協会へも関心を持ってもらおうと、建コン東北支部からノベルティグッズを用意してみました。

参加者の中から一人でも多くの人が、建設コンサルタントという職業に興味を持ってくれることを期待しています。



建コンのネーム入りです



最終審査結果発表を終え、ホッとした様子の高校生の皆さん

● その他

他にも、RCCM 資格試験の運営補助、講演会や支部忘年会、総会後の懇親会の司会など、裏方としても活動しております。様々なイベントがありますので、会員皆様の参加を心待ちにしております。これからも建コン行事に是非ご参加頂きますようお願い致します。

4. おわりに

総務部会では、毎年皆さんに喜んでいただける厚生行事を考えております。まだまだ会員皆様全ての希望にお答えできるような対応は出来ていませんが、色々なご意見を伺いながら改善を図っていきたいと考えております。ご希望やご意見がありましたら、建コン東北支部事務局までお寄せください。

講演会の報告

平成 26 年度の講演会は、「異常気象からみんなを守る～自然災害と共存する知恵」をテーマとして、去る平成 26 年 11 月 14 日にホテル法華クラブ仙台にて開催されました。

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部遠藤敏雄支部長より主催者を代表し、講演会のご挨拶をいたしました。

次に来賓挨拶として、国土交通省東北地方整備局河川部長の鈴木研司様よりご挨拶をいただきました。

講演会は、始めに「くらしに役立つ天気予報の見方・使い方～今後の東北地方の気象～」と題して、三宅淳子様（NHK 仙台放送局 気象キャスター、気象予報士、防災士）よりご講演をいただきました。次に、「災害と日本人～異常気象の世紀をむかえて～」と題して、竹村公太郎様（日本水フォーラム事務局長）よりご講演をいただきました。

三宅様からは、自己紹介から始まり、アナウンサーではなく気象キャスターが伝える気象情報の役割（気象情報を自分で分析して解説する）に始まり、近年は毎年“異常気象”であることを受けて、東北地方の近年の気象災害の実態とその特性、さらにはこのような異常気象現象が頻発する災害大国日本で生きるために必要な知恵とその習得・維持のために必要なこと、最後に防災・減災のため、常日頃如何にあるべきかについて、気象キャスター・防災士の立場でお話しいただきました。特に、冒頭ご自分がこの職業を目指すことになったエピソードやクイズ形式の問答により、参加者の意識を講演に集中させる手法等は、今後の我々の活動を一般の方々に広める際の参考になるものと思われました。

加えて、講演の内容も気象関係者での“用語”の定義と気象予報をどのように普段の生活に活用し、いざという時に備えるべきかをわかりやすくお話しいただきました。普段何気なく聞き流してしまいそうな、気象情報の有効性を新たに認識させられた講演内容でした。

竹村様からは、元国土交通省河川局長の立場におられたこともあり、治水の必然性、温暖化に伴う気象の狂暴化、信用できない堤防、急成長下の水インフラ整備、災害の最前線・海岸、海岸のゾーンで守る、水資源の安定というサブテーマを組み合わせた講演をいただきました。まずは、日本の地形的、気象的特性のた

めに発生する災害（水害）を防ぐため、先人たちの努力・技術的特性を「なるほど！そうか」と誰もが理解できる平易な言葉でお話しいただきました。

次いで、温暖化に伴う気象の狂暴化についても、厳島神社回廊の年間冠水回数の経年変化図等を例に、異常気象が発生していることを具体的に示したうえで、治水の原則（洪水の水位を下げる）の面から、現在の河川堤防の安全性、流域治水の重要性や海岸近傍に資産集中している現状に内在する脆弱性等、多岐にわたる視点から今後の異常気象に対応する際の視点、意識のありようを講演いただきました。

講師の方々の講演を聞きますと、今後発生する異常気象だけでなく、想定される最大規模の災害に対して、インフラ整備に携わる我々としては、自分の専門とする分野のみの知識で備えるのではなく、関連する分野の知識情報に対して日常的に興味を持ち、注意を払い、常に研鑽をしていくことが非常に重要であると感じさせられました。

今後もこのような講演会を開催する予定ですので、会員皆様の多数の御参加をお願いいたします。



NHK 仙台放送局 気象キャスター 三宅 淳子 氏



日本水フォーラム事務局長 竹村 公太郎 氏

〔支部だより〕

10月1日(水)

福島県土木部職員専門研修「長寿命化計画」へ講師派遣
講 師／黒澤 保 (株)建設技術研究所)
三浦 俊史 (株)近代設計)
石井 一人 (パシフィック C (株))

10月3日(金)

RCCM 登録更新講習会
場 所／ホテルメトロポリタン仙台
主 催 本 部 受講者 510 名

10月7日(火)～8日(水)

東北地方整備局「道路設計の実務」他へ講師派遣
講 師／小川 稔 (株)復建技術 C)
村上 康裕 (パシフィック C (株))
大塚 宣昭 (株)福山 C)

10月8日(水)～10日(金)

岩手県土木技術専門研修「道路計画・河川砂防計画」へ講師派遣
講 師／岡田 篤 (大日本 C (株))
木村 重喜 (株)オリエンタル C)
小原 一哉 (いであ(株))
開米 浩久 (株)復建技術 C)
伊藤 竜一 (株)オリエンタル C)
佐藤 亮 (株)菊池技研 C)

10月9日(木)

品質セミナー「エラー防止」
場 所／パレス宮城野
主 催 本 部 受講者 147 名

10月10日(金)

宮城県建設センター「中堅者／構造物部門技術研修会」
へ講師派遣
講 師／石井 一人 (パシフィック C (株))

10月16日(木)

「CPD 説明会」
場 所／パレス宮城野
主 催 本 部 受講者 37 名

10月17日(金)

広報委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)平成 26 年度講演会役割分担、当日の内容確認他
(2)そ の 他

10月21日(火)

東北地方整備局「道路構造物技術セミナー」へ講師派遣
講 師／石井 一人 (パシフィック C (株))

10月22日(水)

福島県土木部職員専門研修「監督業務(設計)」へ講師派遣
講 師／菖蒲 幸男 (応用地質(株))
今村 隆広 (株)復建技術 C)
小野 弘道 (株)ニュージェック)

10月23日(木)

秋田県との意見交換会
場 所／アキタパークホテル
秋田県 石黒 建設技監他 12 名
協 会 遠藤支部長他 19 名
議 題／建コンからの提案議題
(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
(4)建設コンサルタントの活用実態について
(5)災害協定について

10月24日(金)

山形県との意見交換会
場 所／あこや会館
山形県 上坂 県土整備部長他 12 名
協 会 遠藤支部長他 19 名
議 題／建コンからの提案議題
(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
(4)建設コンサルタントの活用実態について

10月27日(月)

整備局・建コン東北支部河川専門委員会及び環境専門委員会合同「現場見学会」
主 催 技術部会(河川・環境専門委員会)
参加者 46 名

10月28日(火)～31日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物」へ講師派遣

講 師／菖蒲 幸男（応用地質(株)）
榊原 信夫（川崎地質(株)）
只野 文好（いであ(株)）
細谷 健介（新和設計(株)）
山口 淳熙（大日本 C (株)）
橋尾 宣弘（(株)エイト日本技術開発）
向江 正夫（(株)東京建設 C）

10月30日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)各講習会について
(2)ガイド東北の進捗状況について
(3)そ の 他

10月31日(金)

RCCM 試験監督員説明会

場 所／(株)復建技術 C 会議室

11月 5 日(水)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 奈良 県土整備部長他 13 名
協 会 遠藤支部長他 21 名

議 題／建コンからの提案議題
(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望
(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
(4)建設コンサルタントの活用実態について

11月 9 日(日)

平成 26 年度 RCCM 資格試験

場 所／東北工業大学

10：00～16：45

主 催 （一社）建設コンサルタンツ協会
(受験者数 仙台会場 636 名)

11月12日(水)

福島県との意見交換会

場 所／杉妻会館

福島県 室井 土木部次長他 7 名
協 会 遠藤支部長他 22 名

議 題／建コンからの提案議題
(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望

(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて
(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて
(4)建設コンサルタントの活用実態について
(5)東日本大震災の復興事業について

11月13日(木)

情報セキュリティ講習会

場 所／パレス宮城野

主 催 本部 情報部会情報セキュリティ専門委員会
受講者 47 名

11月14日(金)

平成 26 年度講演会

「異常気象からみんなを守る～自然災害と共存する知恵～」

場 所／ホテル法華クラブ仙台

講 演／「くらしに役立つ天気予報の見方・使い方
～今後の東北地方の気象～」

NHK 仙台放送局 気象キャスター

気象予報士・防災士 三宅 惇子 氏

「災害と日本人～異常気象の世紀をむかえて～」

日本水フォーラム事務局長

元国土交通省 河川局長 竹村 公太郎 氏

主 催 （一社）建設コンサルタンツ協会東北支部
後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、
日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、
日刊建設通信新聞社、建設新聞社

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、
公益社団法人日本技術士会東北支部他

参加者 300 名
(一般、官公庁、他 160 名、建コン会員 140 名)

11月17日(月)

CIM の動向と関連情報講習会

場 所／パレス宮城野

主 催 本部 情報部会 ICT 委員会 ICT 普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 63 名

11月18日(火)

福島県と「大規模災害時における緊急点検の応援に関する協定」の締結式

場 所／福島県庁

11月19日(水)

総務部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 26 年度スケジュールについて
(2)そ の 他

11月21日(金)～12月2日(火)

技術士模擬面接

主 催 技術部会

受講者 32 名

11月26日(水)

独占禁止法研修会

場 所／建設産業会館

講 師／公正取引委員会事務総局 東北事務所

総務係長 中里 和平 氏

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部、

(一社) 宮城県測量設計業協会、

(一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部、

(一社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部、

(一社) 東北測量設計協会、東北地質調査業協会

6 団体の共催

出席者 200 名 (建コン会員 86 名)

11月28日(金)

岩手県との意見交換会

場 所／エスポワール岩手

宮城県 佐藤 県土整備部長他 5 名

協 会 遠藤支部長他 15 名

議 題／建コンからの提案議題

(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望

(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて

(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて

(4)建設コンサルタントの活用実態について

(5)東日本大震災の復興事業について

11月28日(金)

道路専門委員会・構造専門委員会合同技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 道路・構造専門委員会

受講者 103 名

12月9日(火)

第6回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 27 年度事業計画及び予算 (案) について

(2)各委員会からの連絡事項

(3)そ の 他

12月9日(火)

講演会「建設コンサルタントを取り巻く最近の話題」

場 所／パレス宮城野

講 師 本部 前川副会長

参加者 104 名

12月9日(火)

支部忘年会

場 所／パレス宮城野

主 催 総務部会

出席者 150 名

12月11日(木)

地域コンサルタント委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)本部地域コン委員会報告について

(2)そ の 他

12月11日(木)

河川講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 河川専門委員会 受講者 100 名

12月15日(月)

宮城県平成 26 年度土木部職員研修「道路実務演習」へ講師派遣

講 師／小川 稔 (株)復建技術 C)

12月16日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)各県・整備局との意見交換会の状況について

(2)宮城県との災害協定 (見直し) について

(3)その他

12月16日(火)・17日(水)

福島県平成 26 年度市町村建設事業担当職員研修へ講師派遣

講 師／湯澤 洋一郎 (新和設計(株))

細谷 健介 (新和設計(株))

石井 一人 (パシフィック C (株))

12月18日(木)

福島県平成 26 年度市町村建設事業担当職員研修情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)ガイド東北コンテンツ作成の進捗状況について

(2)そ の 他

1月22日(木)

新技術活用セミナー

場 所／パレス宮城野

受講者 140 名

主 催 東北地方整備局 東北技術事務所

(一社) 建設コンサルタンツ協会 東北支部 共催

支部だより

1月23日(金)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)JCCA TOHOKU 役割分担
(2)H27 年度講演会テーマについて
(3)戦略的広報勉強会について（意見集約）

1月23日(金)

山形県審査者研修（ミス検証研修）へ講師派遣

講 師／湯澤 洋一郎（新和設計(株)）

田村 整（新和設計(株)）

1月27日(火)・28日(水)

東北地方整備局「建設環境セミナー」へ講師派遣

講 師／真木 伸隆（パシフィック C(株)）

丸谷 成（応用地質(株)）

大塚 宣昭（(株)福山 C）

樋村 正雄（いであ(株)）

1月29日(木)

宮城県との意見交換会

場 所／KKR ホテル仙台

宮城県 遠藤土木部長他 7 名

協 会 遠藤支部長他 20 名

議 題／建コンからの提案議題

(1)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入促進に関する要望

(2)魅力ある建設コンサルタントの創出に向けて

(3)安全・安心な国土を形成するための国土強靱化、インフラ保全に向けて

(4)そ の 他

2月3日(火)・4日(水)

青森県平成 26 年度「一般構造物研修会」へ講師派遣

講 師／向江 正夫（(株)東京建設 C）

石井 一人（パシフィック C(株)）

2月6日(金)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／KKR ホテル仙台

整備局 安田 企画部長他 6 名

協 会 遠藤支部長他 20 名

議 題／建コンからの提案議題

(1)事業執行状況について

(2)品質の確保・向上について

(3)入札調達制度について

(4)長期的な担い手の確保に向けて

(5)インフラ保全・老朽化対策について

2月6日(金)

環境専門委員会セミナー

場 所／ホテル白萩

主 催 技術部会 環境専門委員会 受講者 92 名

2月6日(金)

角田市役所平成 26 年度技術研修会へ講師派遣

講 師／石井 一人（パシフィック C(株)）

2月12日(木)

第 13 回 高校生「橋梁模型」作品発表会

場 所／せんだいメディアテーク

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会
(当支部他 5 団体共催)

2月19日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)「ガイド東北」のその後
(2)SIM 講習会について
(3)次年度の活動計画について

2月23日(月)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1)本部地域コンサルタント委員会の報告
(2)本部・支部意見交換会について
講話：「公共事業を取り巻く最近の話題」
東北地方整備局 企画部 技術調整管理官
柴田 吉勝 氏

2月23日(月)

宮城県土木部職員研修「海岸施設実務演習」へ講師派遣

講 師／馬淵 幸雄（パシフィック C(株)）

2月25日(水)

平成 26 年度技術担当者会議

場 所／パレス宮城野

主 催 技術部会 受講者 43 名

2月27日(金)

総務部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 26 年度スケジュールについて
(2)活動報告および今後の予定
(3)そ の 他

3月3日(火)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／KKR ホテル仙台

本 部 大島会長他 12 名

支 部 遠藤支部長他 26 名

議 題／1.平成 27 年度「要望と提案」（第一次原稿）
について
2.平成 27 年度「白書」（第一次原稿）につ
いて
3.そ の 他

パネルディスカッション：「多重防御の実情と課題」
〈コーディネーター〉

東北大学大学院工学研究科

教授 田中 仁 氏

〈パネリスト・話題提供〉

宮城県土木部仙台土木事務所

所長 鷺巣 俊之 氏

東北大学災害科学国際研究所

助教 今井 健太郎 氏

（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

馬淵 幸雄 氏

参加者 250 名

3月16日(月)

第 3 回国連防災世界会議パブリック・フォーラム
「東日本大震災からの多重防御によるまちづくり」

場 所／アエル（AER）21 階

TKP ガーデンシティ仙台（ホール B）

基調講演／「災害に強い社会づくりのための津波災害研究」
東北大学災害科学国際研究所
教授 越村 俊一 氏

3月25日(水)

秋田県と災害時における調査・設計等の応急対策業務
に関する協定締結式

場 所／秋田県庁舎 3 階

秋田県 堀井副知事他

建コン 遠藤支部長他

[会員の動向]

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

平成26年10月 1 日	パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社 支社長 上野 次男
平成26年11月 1 日	大 和 工 営 (株) 代表取締役 後藤 信一
平成26年12月 1 日	(株)クレアリア 東北支店 支店長 酒井 純
平成27年 1 月 1 日	中央復建コンサルタンツ(株) 東北支社 支社長 石橋 裕之

◆ 住所変更

平成26年10月 1 日	(株)片平エンジニアリング 仙台事務所 〒980-0814 仙台市青葉区本町 1-2-20（KDX仙台ビル） TEL 022-722-3130（変更なし） FAX 022-224-2617（変更なし）
平成26年10月20日	(株)東 建 工 営 〒981-1227 名取市杜せきのした 1-2-7（MKKビル） TEL 022-383-9811（変 更） FAX 022-383-9812（変 更）

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員4月1日現在 101 社

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺3-13-10	022-295-5768
朝 日 航 洋 (株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
ア ジ ア 航 測 (株)	仙 台 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株) ア ス コ	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-30	022-257-0091
(株) 東 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株) ア ー バ ン 設 計	本 社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
い で あ (株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株) ウ エ ス コ	東北支店	〒981-3107 仙台市泉区本田町13-31	022-776-3151
(株) ウヌマ地域総研	本 社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エ イ ト 技 術 (株)	本 社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株) エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応 用 地 質 (株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株) オ オ バ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平エンジニアリング	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3130
川 崎 地 質 (株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタンツ	本 社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
(株) キ タ コ ン	本 社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株) キ タ ッ ク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタンツ	東北事務所	〒960-8043 福島県福島市中町4-20	024-524-2381
(株)協和コンサルタンツ	東北支店	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
(株) 近 代 設 計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株) ク レ ア リ ア	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町9-7	022-726-5225
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-265-0666
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)建設技術センター	仙台営業所	〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-15-23	022-302-1195
(株)興起測量設計事務所	本 社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本 社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙 台 支 店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国 際 航 業 (株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
(株)コサカ技研	本 社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本 社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)三協技術	本 社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタンツ(株)	本 社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタンツ(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタンツ	本 社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴 田 工 事 調 査 (株)	本 社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本 社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭 和 (株)	東北支社	〒980-0022 仙台市青葉区本町2-1-1	022-261-9052
新 日 本 技 研 (株)	仙 台 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-212-4870
新 和 設 計 (株)	本 社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
(株)ジャパックス	東北支店	〒983-0851 仙台市宮城野区榴岡25	022-352-1336
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株)創研コンサルタンツ	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株)総合技術コンサルタンツ	東北支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創 和 技 術 (株)	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)高島テクノロジーセンター	東北支店	〒980-6117 仙台市青葉区中央1-3-1	022-721-5401
(株)田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株)大東設計コンサルタント	仙台支店	〒983-0038 仙台市宮城野区新田2-17-38	022-239-6441
大日コンサルタント(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株)ダイヤコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株)地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-2-1	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0037 仙台市若林区蒲町字東50-2	022-766-9121
(株)中央技術コンサルタント	東北支店	〒981-3131 仙台市泉区中央2-16-12	022-375-6787
中央コンサルタント(株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-18-21	022-722-2545
中央復建コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタント(株)	東北営業所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
中部復建(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-5-18	022-274-8190
(株)長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株)千代田コンサルタント	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-8	022-214-6261
(株)帝国コンサルタント	仙台支店	〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央5-2-15	022-391-0870
(株)テクノ長谷	本社	〒980-0824 仙台市青葉区支倉2-10	022-222-6457
(株)東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタント(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株)東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株)トーニチコンサルタント	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株)ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株)東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株)東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株)日水コン	東北支所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株)日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-1-7	022-713-6657
(株)日本港湾コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本シビックコンサルタント(株)	東北事務所	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-263-3605
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株)ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	本社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-65	022-713-7277
パシフィックコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株)パスコ	東北事業部	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-2-11	022-299-9511
(株)東日本建設コンサルタント	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株)吹上技術コンサルタント	東北事務所	〒980-0022 仙台市青葉区五橋2-11-1	022-722-1235
(株)福田水文センター	東北営業所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-6-10	022-224-1417
(株)福山コンサルタント	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタント(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株)双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株)復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株)復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタント(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株)横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18	022-262-1493

編集後記

東日本大震災から4年が経過し、3月半ば、仙台市で国連防災世界会議が開催された。防災や減災、復興に関する総合フォーラムや350以上の一般参加のフォーラムを含む仙台市（東北）では過去になかったレベルの国際的な会議だ。東日本大震災が無かったら仙台ではなかったのかもしれない。この4年間どれだけ真剣に深刻に考え取り組んできたのか？それを世界に日本として発信できる絶好の機会だと思う。「この仕事」に関わっていないとこんな大きな会議の身近に居ることはなかっただろう。

震災復興に対しては「基幹事業の整備は順調に進捗している」と国は言っている。そしてH27年度は「復興加速を実感する」年だとも言っている。その一方で『国土のグランドデザイン 2050』ではキーワードを「コンパクト＋ネットワーク」と掲げ、2050年には明らかになっている急激な人口減少と少子化をこれで切り抜けようとしている。復興は実感できるかもしれないが、2050年には私は生きていない（たぶん）から「コンパクト＋ネットワーク」はどんなだろう？

また、H26年度「この仕事」でなくとも聞かされた「インフラメンテナンス」に対して国の社会資本整備審議会は「今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れ」と言う。

「この仕事」は考えれば考えるほど、深くて重い使命感で息が詰まりそうになる。

今年も下記のとおり「この仕事」の新技术を他の建設関連の企業や団体と供に発表する場が在る。当支部も主催者名に名を連ねる『E E東北'15』（いーいーとうほくいちごー）。

開催日時：2015年6月3日(水) 10:00～16:30

4日(木) 9:30～16:00

開催場所：みやぎ産業交流センター 〈夢メッセみやぎ〉

(宮城県仙台市宮城野区港3-1-7)

ついに参加団体が300を超えた。建設コンサルタント協会からも18の会社が参加する。やはりまだまだ東北は注目を浴びている。

(2015年 3月 高橋 力 記)

JCCA TOHOKU Vol.51

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11

アーク仙台ビル

TEL 022-263-6820

編集	広報委員長	松川 秀敏	副委員長	菊池 透
	広報委員	大友 正樹	広報委員	荒木 孝広
	〃	田子 洋一	〃	佐藤 雅樹
	〃	高橋 伸彰	〃	高野 浩二
	〃	目々澤 英幸	〃	山田 勝
	〃	海藤 剛	〃	高橋 力

事務局 諸澤 宗男・小川 みゆき

印刷 ハリウ コミュニケーションズ株式会社

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。